

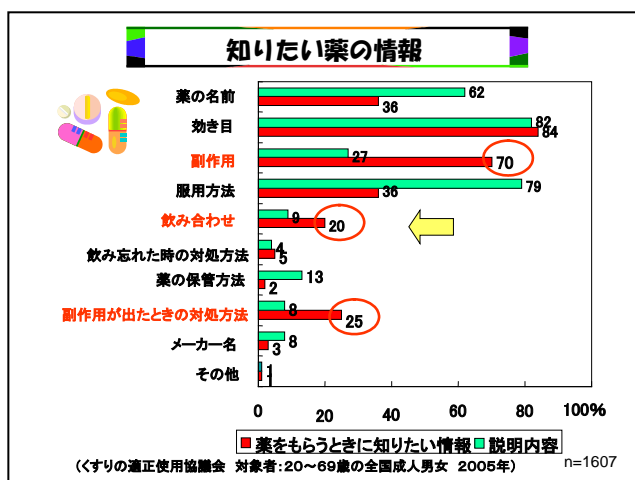
演題名 “薬と薬” “薬と食品” の相互作用について

氏名 山村恵子

所属 愛知学院薬学部 臨床薬剤学講座

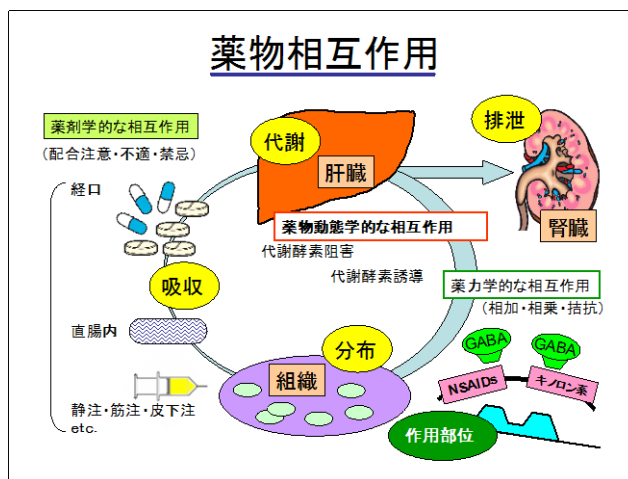
わたしたちは薬とどのように付き合っているのでしょうか。

21世紀は健康増進をめざした予防医療の時代とはいえ誰でも一度は薬のお世話になっているはず。薬を飲む前に薬の基本的な知識を理解しておけば、もっと、じょうずに薬と付き合えるようになると思います。ところが、処方された薬を間違えて飲んだ経験のあるひとは何と全体の85%というデータが報告されています。その間違いの内容は飲む回数、最後まで飲まずに途中でやめた人がそれぞれ、半数近くいます。「知りたい薬の情報」調査で副作用や飲みあわせを知りたい人が多くいることがわかりました。“薬と薬”、“薬と食品”の飲み合わせによって健康被害になることもあります。あらかじめ知識があれば避けることができます。今回は代表的な相互作用（飲み合わせ）について紹介します。

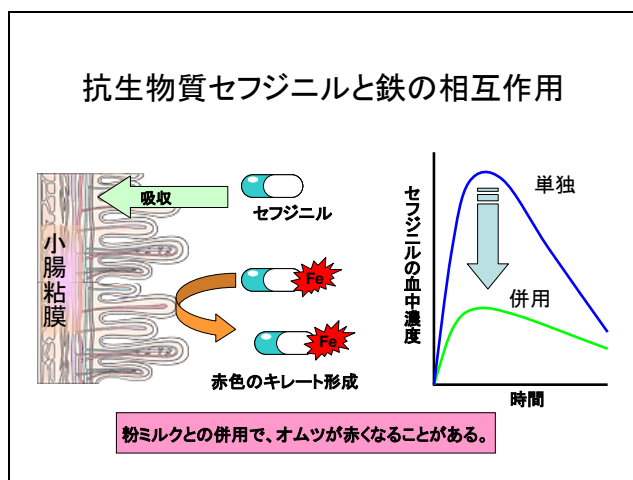


薬物相互作用は「薬剤学的な相互作用」「薬物動態的な相互作用」「薬力学的な相互作用」の3つに大きく分類されます。薬剤学的な相互作用は体内に吸収される前に起きる相互作用です。薬物動態的な相互作用は薬物が代謝されるときに飲み合わせの相手によって効果が強く出たり、また、逆に弱くなったりする

ことです。



薬力学的な相互作用は体内で薬と薬、あるいは薬と食品がお互いに作用を強めたり、弱くすることです。したがって、相互作用は体内に入る前と体内に入ってから2通りに存在するわけです。



小児に処方される抗生物質セフジニルは粉ミルクに含まれる鉄との相互作用で便が赤くなることもあり、知らないとお母さんは驚いてしまいます。医院で薬が処方されたとき、あるいは、薬局で市販の薬を購入するときは、ぜひ、“かかりつけ薬剤師”にご相談されることをお勧めします。